

令和2年度 第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和2年9月9日（水）13:30～
開催場所	横浜市役所会議室 なみき16・17
出席者	（委員）小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員
開催形態	非公開
議 題	1 委員長の選出 2 会議の公開について 3 令和2年度事業評価（令和元年度分）職員採点について 4 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答 5 令和元年度第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会議事録の確認 6 令和2年度動物園選定評価委員会日程
<p>1 委員長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長の決定・・・小宮輝之委員長 ・委員長代理の指名・・・佐渡友陽一委員 <p>2 会議の公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非公開とする <p>3 令和2年度事業評価（令和元年度分）職員採点について （資料1，2，3，4について事務局より説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3園個別の得点率では野毛山動物園が少し低いですが、これについて原因は何か考えられるか。 →点数は1項目ずつの積上げとなっており、これまで指摘してきた事項について改善も見られていると捉えているが、他と比べるとプラスで特筆すべき評価がしにくいところがあり点数の差が生じたと考えている。ただし、昨年度の市職員の点数と比較すると上がっている。 ・よこはま動物園の固有事項はあるか。 →採点項目によこはま動物園の固有事項は、ない。野毛山動物園は、万騎が原ちびっこ動物園が分園としてあり、金沢動物園は、ののほな館という動物園外の施設があるため、固有事項として加えている。その代わり自主事業の採点部分において、よこはま動物園は2項目挙げており、園ごとの配点は3園とも同じである。 ・動物飼育業務について頑張っているという印象がある。 →動物飼育業務については、動物園の根幹業務であり配点が高い項目になっているが、この結果により指定管理者がしっかりと取り組んでいることが表れている。過去、この項目で厳しい点数になった年もあったが、それをふまえて指定管理者も十分認識し力を入れているということを感じている。 ・調査員・評定員には動物飼育経験者が含まれているか。 →評定員の中に飼育経験者が含まれている。 	

- ・ズーラシアのツイッターアカウント喪失について、その後どのような状況であるか。
→当初 12 万人ほどいたフォロワーが一旦ゼロになり、新しいアカウントを取得した現在、約 2 万人のフォロワーとなっている。
- ・新型コロナ拡大防止対策による 2 月 29 日からの閉園について、評価に影響はあるか。
→評価項目の変更は、ない。2 月 29 日からの約 1 か月の休園により、入園者数は大きくマイナスとなり、その間予定していたイベントはすべて中止となった。ただし今回の評価は昨年度分であり、大部分は閉園期間以外の評価である。
- ・閉園により入園者が減ったことについて、来園者数目標に対する評価に影響しているか。
→運営の結果ではないため、閉園による入園者数減はマイナス評価としていない。
- ・来年（今年度分の）評価を行う際に新型コロナ拡大防止対策による閉園を考慮して、評価方法が変わることがあるか。
→項目や配点を変えると、継続して評価を行うことやこれまでとの比較をすることができなくなることの懸念がある。
→入園者数目標についての評価は、評価の視点を少し変えたり、休園中に行った取組をそこに充てて評価したりする等の方法も検討したい。
→いずれにしても他の指定管理施設の評価方法の状況もふまえて、今後検討したい。
- ・新型コロナ拡大防止対策という点では、評価項目の「市民協働やボランティアへの活動支援」についても、今年は非常にやりにくいと思われる。これについても評価の課題として検討してほしい。
- ・新型コロナ拡大防止対策については、指定管理者だけではなく市役所としても考えていく必要がある。市民協働も特別の事情とし、ここをゼロとして少しでも何か成果ができればプラスと捉えたほうがよい。
→イベントやガイドツアーは実施できていないが、今できることをやるというスタンスで取り組んでいる。指定管理者の業務として定められている事業について、事業を実施しなかったから評価できないということではなく、それに代わる別の取組を行っているということをきちんと拾って評価することが大切だと認識している。入園者数についても、閉園期間があり目標値には届かないが、視点を換え来園者が少ない平日にお客様を呼ぶ取組などもこの機会にできたらよいと考えている。
- ・WITH コロナの時代において、動物園のあるべき姿や周辺の公園も含めた位置付けについての課題や、これだけ状況が変わり評価指標をどのように対応させていくかということは、非常に難しい問題であることを共有したい。柔軟な対応が必要であると考えている。

4 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答

（指定管理者入室 プレゼンテーション）

- ・非常に分かりやすいプレゼンテーションだった。

・ヒューマンエラー防止の取組は3日間各2時間ずつ実施したとのことであるが、3回で足りているか、予算はどのくらいか。

→ANAの研修を動物園バージョンに変更し実施した。動物園のヒヤリハットをすべて講師に渡し、3動物園の園長を含めた講師との打合せを行ったうえで組立てられた独自研修であった。講師はANAの方で3園それぞれ1回ずつ実施した。1回あたり10万円以上の研修であった。

・収支改善を目的とした店舗事業者の新規選定について、効果は出ているか。

→2月1日より事業者の切替えを行ったが、2月末より動物園を閉園したため実績は出していない。

・新年度で効果を測るのか。

→はい。7月はズーラシア入園数が昨年比140%で、物販の増加率は入園者の増加率を若干上まわった。

・収支改善・サービス向上の取組にある地産地消メニューは、具体的にどのようなものか。

→カレーライスに、はまポークを使用しソフトクリームは市内の小野ファームの製品である。

・お客様に分かるような表示があるか。

→店舗に表示している。

・入園者数は見通しも含めてどのような状況か。

→今年度は6月11日より開園し、ズーラシアは現在も5千人の入園制限を実施している。野毛山動物園は6月の土日は市と協議のうえ閉園した。7月はズーラシアの入園者数は前年比140%となり、金沢動物園は、前年比約2倍の入園者数だった。8月は、夜の動物園を実施しなかったが、その人数を差し引けば昨年よりも増えていた。今後どのような状況になるか不透明のため、連休(GW)の分を取り返せるかは分からないが、このまま頑張れると考えている。

・横浜市からは何か示されているか。

→密にならないようにと言われている。

→横浜市は目標何人という数字は示していない。どのような対策を行っていくか、平日で何かできることはないかと話している。

・インドライオンは手続きをやり直しているという事だが、いずれ入るのか。

→出園する園を変更するが今年度中に完了する見込みである。

・ナイトズーラシアの駐車場の出庫時間短縮は、具体的にはどのようなことを行ったか。

→帰りの時間が集中してしまうことについて、声かけや紙のお知らせで予め周知した。

→中央分離帯を利用して出庫車両を2列にして導線を広げたほか、高校との間の幹線道路に一部車を誘導した。

・チンパンジー舎の施錠に関する色分けの工夫は、他園で実施している事例か。もしくは研修などから派生したことか。

→国内他園の事例を参考にした。またズーラシアの自動ドアは、もともとロックピンを視認できるように

色付けされていたため、それに倣った。

・ヒューマンエラー研修の成果を実感したことや現場に反映されたことはあるか。

→1回の研修で効果が顕著に表れるのは難しいと考えており、今年度も引き続き研修を実施していくことで全体の危機意識などを保っていききたい。

・タイ王国との覚書締結は大変良いことだが、持続的な協力関係の構築や生物多様性保全に結びつく先方のメリットについてどのようなことが考えられるか。

→アカアシドゥクランゲールについては、個体の交換による双方の血統更新というメリットがあり、また獣医技術の連携も覚書に記載している。

・域外保全の連携が軸になっていくということか。

→まずはそのようなところだが、今後どこまで域外保全を視野に入れた連携が必要になってくるかということである。

・金沢動物園について、石川県と認識されている事例があったが、金沢動物園が狙っている集客層はどのようなところか。

→半径いくらのエリアという考え方と、3園の果たす役割という点で考える集客層があるが、距離で考えると三浦・鎌倉・横須賀エリアを含めた来園者が多い。

・もっと遠方から集客をするという話であれば、そもそも金沢動物園というネーミングが適切なのかということから問われるが、考えているような範囲であれば良いと思う。

→所在地の認識についての事例は、ほとんど動物園に関心がなかったアイドルファンの方のつぶやきであり、そのような意味では知っていただく良い機会であったと捉えている。

・インドゾウの担当者育成について、直接飼育を継続することを前提としているのか。

→将来的に準間接飼育になるよう徐々に移行していく。そのためには、設備が必要でありその進捗と併せて移行することになる。

・動物福祉をいかにファンづくりにつなげていくかという事を考えていかないといけない。また、セットで考えるべき点は教育関係である。教育プログラムは学校教育等外部団体がメインになるが、最終的には、自分のファンに対してどのような情報を提供し、どのように経営資源に結びつけるかというアニマルペアレントも含めたファンドレイジングのことにつながる。世界動物園水族館保全戦略の保全文化の創出、つまり何のために動物園は教育するか、その成果をどう計っていくかという点についてももう少し戦略的にすべき。

・動物園はやらなくてはならないことが色々あり縦割りの感じになってしまうため、動物園なりに何を指すのか、指定管理者としてのコーポレートアイデンティティをどのように職員として共有していくか、どのように戦略的に構築していくか、という点がもう少し分かりやすくなると評価につながる。

→これからしっかりと、考えていかななくてはいけないと思っている。現在はSDGsについて指定管理者としてどう取り組むかという方針づくりに着手している。

・今後の報告を期待している。

・ツイッターのアカウント喪失後の対策として配置した広報統括責任者は、SNSだけを対象としているのか。

→ポスターなど含めた広報全般を対象としている。

・動物園ではなくて、本部に配置しているのか。

→はい。

・そこで、ガイドラインを作り始めたのか。

→今まであった基本のルールに加え、細部に亘り盛り込んだ。

・プレゼンテーションは良くまとまっていたので、毎年作成する事業報告書なども自己評価と今後の課題を記載する、また前年との結果比較を加える等工夫を検討するとよい。

(指定管理者退室)

意見交換

・国際的な働きかけ、繁殖計画について、積極的に関わっている印象を受けた。

・動物福祉について、世界的な流れについていこうとする姿勢が分かる。

・ヘサキリクガメの件で、国際的にも評価されていることを委員会としても評価することは当然である。

・園長の支援もあったと聞いている。連携がとてもうまくいってこのような成果がでたと感じる。

・ヘサキリクガメの飼育担当が変わっても殖えたことは良かった。

・動物福祉について、ハズバンダリートレーニングの取組を含めて一定評価できるが、今回特別に良かったという特筆すべき点は見当たらない。

・学会誌の投稿が年5本であることも熱心であると認められる。

・日本の動物園水族館協会を引っ張っていく存在感が出てきている。

・教育プログラムについて、リモートの提案はなかったのか。

→現在は実施しているが、(今回の評価の対象となる)3月までは実施していない。

・国語の授業に関連する「動物のお医者さん」のようなプログラムは環境教育に含まれるのか。環境教育と言うからには、対象者の行動を変える道筋が必要。学校に頼まれたからということではなく、より積極的に狙いを持った結果、成果が得られたという話ではないと高い評価には結びつかない。

・利用者サービスに関する評価は、コロナの影響もあるためどのように評価すべきか。何とかしようという気持ちは出ていたと感じた。

→2月までは例年どおり運営し、3月の休園についてはブログの発信などを増やしていた。今振り返ると、

その頃は小刻みに休園が延びていた状況のため、内容も開園を見据えた発信だった。状況にあわせて発信方法も少しずつ変わり、3月は動物園休園時の動物の様子を伝え、現在は、開園はできているがイベントができない状況のため、お客様がいない状態で実施した講演プログラムを配信するような形態に移行している。

・2月末時点の入園者数は前年比ではどうか。2月末までは、台風の影響はあったものの入園者数を増やす取組で成果もあがっていたと期待している。3月に入りステージが変わったことで、情報発信を増やして対応していたということであれば評価に値すると思う。

→2月末時点では、前年同月比ズーラシア 101%、野毛山 97.5%、金沢は 92.5%となりトータル 98.8%であった。3月の営業ができていれば前年並みの入場者数になるという予想である。

→去年は台風の影響で臨時休園したが、休日を含んだこともあり10月は前年比6割程度であった。最終的に前年並みに持ちこたえたのは他の月が良かったからである。

・民営の動物園は危機感が強いと思う。クラウドファンディングを募集したら一晩で1千万円集めたところもあるが、横浜の動物園がここまで危機感を持っているのかどうか不明である。

→危機感という点では、自分たちの収益で運営しているところと、指定管理で運営している施設とはたしかにベースが違うと思う。

・動物園に限らず、このような状況になって、困っているところとあまり影響がないところがある。もともと財源の多様化ができているところは安定している。自主財源、指定管理など行政の助成金、寄附金や会費収入など善意の資金の3本がしっかりして人との関係性が成立しているところは、お金や支援を得られている。日本の動物園は今まで、どちらかというに入園料や行政からのお金など、お客様の顔が見られなくても得られるお金に頼ってきたということが大きいと一定の危機感があつたほうが良いとは思いますが、だからといって民営の動物園と同じような危機感を持つべきだ、というのとは少し違うと考える。

・クラウドファンディングのような取組を横浜もどこかでやってみたらよいと思う。

→クラウドファンディングをはじめとする寄附は、色々な手法があると考えており、動物園財源確保について考えていく。

採点・採点結果確認

・過去の評価の推移はどのような状況であったか。

→3年前から2年前にかけて点数が下がったことがあった。（評価は変わらず）

・評価されるべきところはされており、妥当である。

(評価確定)

5 令和元年度第3回指定管理者選定評価委員会会議録の確認

(資料5 令和元年度第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録について事務局より説明)

- ・意見があれば事務局へ連絡し、とりまとめて委員長に確認し確定とする。

6 令和2年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程

(資料6 令和2年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会日程について事務局より説明)

- ・今後の状況によりリモート会議も検討する。
- ・視察場所について再度精査し、実施方法もあわせて検討する。

配布資料	<p>資料1 横浜市動物園等の事業評価について</p> <p>資料2 指定管理者事業評価依頼書</p> <p>資料3 指定管理者事業評価採点報告書（令和元年度分）</p> <p>資料4 調査員・評定員所見シート</p> <p>資料5 令和元年度第3回指定管理者選定評価委員会議事録</p> <p>資料6 令和2年度横浜市動物園等選定評価委員会日程案</p> <p>参考1 横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱</p> <p>参考2 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会運営要綱</p> <p>参考3 横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱</p> <p>参考4 指定管理者出席者名簿</p>
------	--